

地域包括ケア研修会アンケート結果

テーマ：人生の最終段階における意思決定支援について

がん告知から看取りまでの支援を振り返り人生会議を考える

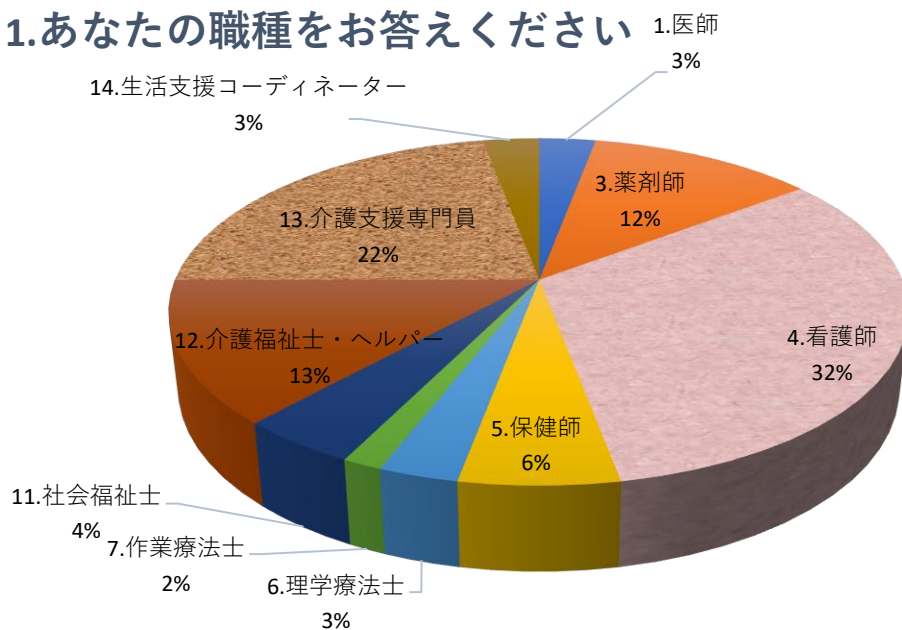
開催日：令和3年12月3日(金)17:30～21:00（オンライン研修）

主催：訪問看護ネットワーク部会

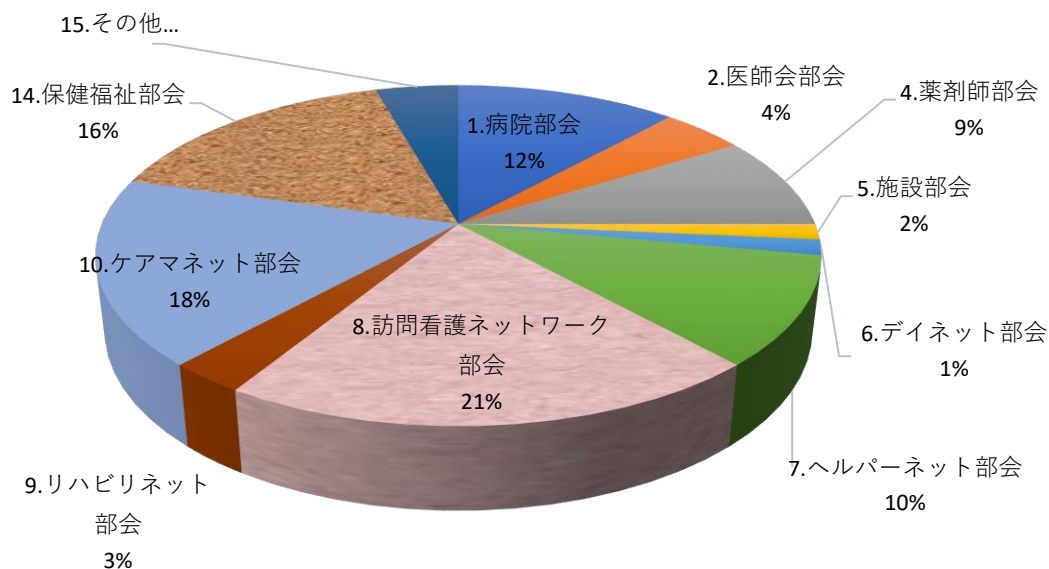
参加者：95名

回答者：68名 回答率：71.5%

1.あなたの職種をお答えください

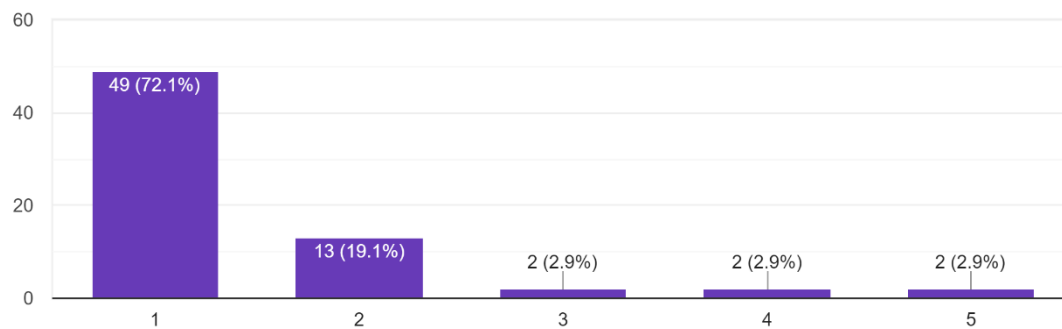


2.あなたの所属をお答えください



3.研修の分かりやすさについてお答えください。

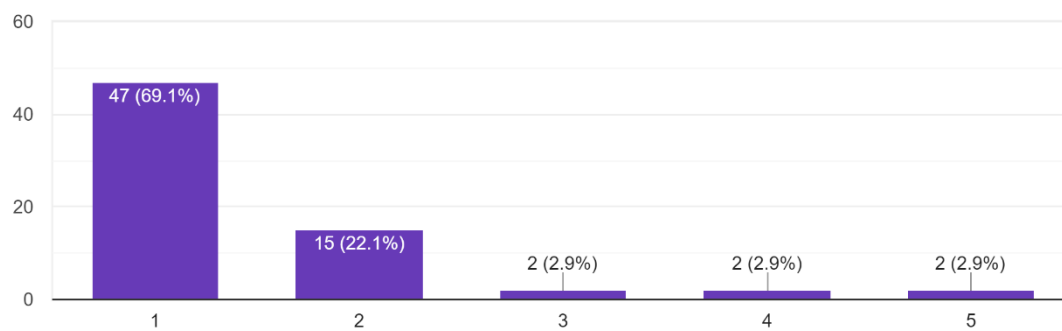
68 件の回答



【内訳】 1.分かりやすい～5.全く分からない

4.研修の満足度についてお答えください

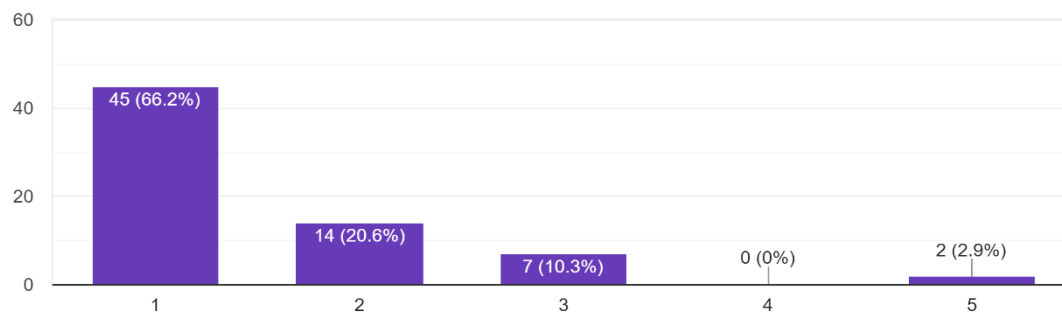
68 件の回答



【内訳】 1.満足～5.不満

5.今後の活用についてお答えください

68 件の回答



【内訳】 1.活かせる～5.全く活かさない

6. 今回の研修で活用できる内容について具体的にお書きください

- 対象者、チームスタッフとの対話を大切にする。
- ACP の考え方。
- 協働意思決定についてのプロセスと具体例からその活かし方。
- 家族への対話の仕方。
- ACP のタイミング、意思決定プロセス各期での看護師の声かけ方。
- 人生の最終段階の意思決定のプロセスの大切さについて、難しさについて初めて知ることができた。
- 一人で受け止めるのではなく、チームで介入する。覚悟を決めること。
- 多職種連携の重要性とそれを生かして患者さんにどのように向き合っていくかをみんな
で共有して在宅は進めていかななくてはならないと感じました。
- 心理的安全性の確立の重要性を理解した。
- 訪問看護での看取りについてのプロセスが参考になりました。
- 今までの生活歴などを聞くことは大切なので、足りないところを少しずつ聞いていきたい。
- ACP は一部ではなく、プロセスであるということ。継続していくこと。
- 医療依存度が高い方でも在宅で看取る事ができる事が心強いです。
- 介護支援専門員として実践に活かしたい。
- 事例を通して専門職がその時々でどのように関わると良い支援ができるのかをイメージ
できた。
- 訪問介護で終末期のケアを行っている時に迷いや不安がありましたが、今後は本日の研修
内容を参考に、実践できればと思いました。
- 信頼関係を築けるようなコミュニケーションをしていく。
- リビングウィルではなく前もって話し合うこと、お互いの価値観の共有
- 本人、家族それぞれ理解しようとし続けること。
- 協働意思決定を行っていくうえで、会話する際に意識すること、相手の意思に寄り添う反
復、どう伝えるか、どう引き出すか、本当にコミュニケーションスキルを磨き続けなけれ
ばいけないと強く感じた。
- 残された少ない時間での迅速な行動。
- ACP の具体的な進め方を疑似体験できました。
- 意思決定に至った理由をきくこと。
- 退院後の様子を知ることができた。病院薬剤師として今後どういう面でお役にたてるか考
えながら、日々自己研鑽していきたい。
- 重大な意思決定をしたあとでも気持ちは揺れ動く、一度決めたからといって貫かなくても
よいということ。
- 患者さんの伴走者としての自分の役割を考え、価値観や気持ちを尊重した介入を心がけて
いこうと思いました。
- ナラティブな話し方 実際の会話の表現が分かりやすかった。

- 普段から利用者の話を傾聴（物語）することで、その人が生きるために大切に思っていることも引き出せること。
- 協働意思決定はソムリエやガイドランナーに似ている喩えが分かりやすく事業所内でも共有できると思いました。
- ナラティブアプローチは普段から活用しているが改めてその必要性と面談技術を磨くことの大切さを感じた。
- 意思決定支援はソーシャルワーカーの専門分野に関わっている部分が多いため、より頑張っていきたいと思った。
- ACP についての理解が深まり地域に啓発する際にどのように伝えていくのか自分なりに整理できたこと。
- 地域包括支援センターは、退院後の最初の段階で関わる人が多いので、その段階から ACP が大切だということ、意思形成、意思表示支援が必要だと分かりました。

7.今後企画して欲しい研修内容をお書きください

- 医療連携
- ACP と地域社会との関わり事例、家族と本人の意思のすり合わせが上手くいかない場合
- ユマニチュード
- 在宅へ向けてのプロセス
- ACP の事例検討（がん、非がん、認知症等多くの症例で研修会を持ってほしい）
- 訪問介護をしている為、多職種連携についてなど、詳しい講義があるとうれしい
- 在宅での緊急時の対応
- 身寄りのない高齢者の支援
- 非癌の ACP 事例を疑似体験
- 剤形による麻薬の使い方について全職種で共通理解をもつ機会を持つ
- 今回のような看取りの事例検討会
- コミュニケーションが取りにくい療養者とのコミュニケーションの取り方

8.研修会に対するご意見・ご感想をお書きください

- 病院での支援から在宅へのつながりが聞けて良かった。病院の看護師さんに聞いて欲しい内容でした。
- 在宅看取り、病棟でのかかわり方の実際が理解できた。貴重な事例報告ありがとうございました。
- 素晴らしいお話をありがとうございました。一人で覚悟を決めて介入し続けることは難しく、チームで介入していくことが大事だと思いました。一人で考えず、みんなで考える。心にしみる言葉でした。
- 最終的に本人へ余命を宣告できたのか。余命半年と宣告と言っていたが、矛盾しているよ

うに感じた。

- 具体例を提示してくれ、とても分かりやすかったですし、自分のそのチームにいるような気になり感動してしまいました。
- Aさんの物語を一冊読ませて頂きました。仕事として、私人として、とても多くのことが学べたとおもいます。
- 医師・病棟看護師・訪問看護師それぞれの気持ちや関わり方、考え方を知ることができ、大変参考になりました。今後、訪問介護士として、本日の講義を生かすことができるよう努力したいと思います。
- オンラインでの聴講は有効であったが、勤務状況にて聴講できない場合もあるので、後日聴講できるような配慮を希望する。
- 安全性の高いチームを目指していけるよう今後も支援していきたいと思いました。
- 安城市の音声が聞き取りにくかった。
- 現在の職場でACPを取り入れていこうと考えていたので大変参考になりました。
- 今まで病棟と在宅間でどのようにバトンタッチされていくかという研修会は少なかったものでとても勉強になりました。是非、また相互の情報を深める機会や困難事例へのかかわりなど研修会があればいいなと思います。
- 自分が受けたい流れだった。その当時のやるせない気持ちを思い出して泣きそうになった。こんな理想的な最期を迎えられた利用者と家族、それを支えた関係者さん達に脱帽です。
- ZOOM開催でしたので、緊急当番でも参加できた。
- 看取りのチームの良き一員になれるよう今後も是非参加し精進したいと思います。
- 伴奏者という言葉、非常に気に入りました。
- 仕事が終わってから参加できる時間帯なので、参加しやすかったです。
- 現在在宅での療養を多職種で支援しています。退院時医師とワーカーから在宅は無理であるといわれましたが、ご本人と家族の在宅でという意味を大切に、皆で協働して支援させていただきたいと思います。本日の研修本当に心に響きました。
- 看護師さん、患者さん、患者の家族さん…その当時のやり取りが目浮かぶような研修でした。